

聖籠町総合計画審議会 第2部会（福祉＋教育・文化）

第2回議事要旨

日 時	令和7年9月29日（月） 9時00分～11時30分
場 所	聖籠町役場1階会議室
出席委員	金山委員（部会長）、青木委員、田中委員、斎藤委員、安尻委員、高橋委員
事務局	勝見保健福祉課長補佐、和田町民課長補佐、阿部長寿支援課長補佐、大野子ども教育課長補佐、阿部教育未来課副参事、諏江図書館副参事、飯沼社会教育課副参事
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 部会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>（1）素案の検討</p> <p>① 資料No.1 第2章Ⅲ 幸せに暮らせる福祉のまちづくり（第2章80～87ページ）</p> <p>② 資料No.2 第3章Ⅰ 学校・家庭・地域の協働（第3章89～93ページ）</p> <p>4 その他</p> <p>第3回 第2部会（福祉＋教育・文化）の日程連絡</p> <p>5 閉会</p>
要 旨 (検討内容)	<p>議事(1)</p> <p>○ 事務局から第2章「Ⅲ 幸せに暮らせる福祉のまちづくり（第2章80ページ～87ページ）」～「Ⅰ 学校・家庭・地域の協働（第3章89ページ～93ページ）」について説明</p> <p>説明者：勝見保健福祉課長補佐、和田町民課長補佐、阿部長寿支援課長補佐、大野子ども教育課長補佐、阿部教育未来課副参事、飯沼社会教育課副参事</p> <p>～説明後の検討意見～</p> <p>○【第2章Ⅲ 幸せに暮らせる福祉のまちづくり】</p> <p>『1 地域福祉の充実』について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題：「町では相談窓口を高齢者、障がい者、子ども等各分野に設置」とあるが、限定せずに単身者の孤独死が増加していることから単身世帯を含めたらどうか。 ・単身女性や外国人への福祉（災害の時に分かりやすい日本語）の観点も含めることは可能か。Well-Beingという観点で福祉を考えるのはどうか。 <p>⇒単身者や女性について記載する方向で修正。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針：福祉ボランティア数（団体）には除雪ボランティアが7団体（2019年）から2団体（2024年）に減少した理由は何か。今は団体としてはなく、個人ボランティアとして活動しているのか。 <p>⇒無くなったのではなく、この年の社協への登録がなかった。2団体＝除雪、杉の子の家のボランティア団体（R6年度）。社協では特別理由を把握していないが、団体数が減ることのないように目指すべきと考え、8団体を指標として設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動団体が多い方が個人で参加しやすい。目標達成に向け具体的な取組をお願いしたい。

要 旨
(検討内容)

・要支援者災害時避難方法検討率について、個別避難計画は名簿対象者の同意取得が進まず、作成率も4%と低水準にとどまっているがその原因は。

⇒R6年度から3か年かけて要支援者全ての方の避難計画を作成予定。災害危険度が高い集落を優先的に作成し、昨年度は対象集落が小さく全体の4%となった。今年は災害危険度が中程度で、大きな集落の名簿作成を予定しており、来年度までには概ね完了予定。

・主要事業名「地域福祉計画の推進だけではなく、地域福祉活動計画との協働」を追加したらどうか。町の地域福祉と民間（社会福祉協議会）の両輪の取組が重要なため。

・法律の記載に合わせて「市町村地域福祉計画」と表記したらどうか。

⇒検討する。

『2 高齢者福祉及び介護予防の充実』について

・介護認定率を指標として入れている理由は。

⇒介護認定率を把握することで、介護を必要とする町民を減らし、健康で暮らせる町民の増加に繋がりたいと考えているため。

・P3「定年退職後の就労者が増加し、老人クラブの加入者が減少している」とマイナスに捉える記載があるが、就労者が増え、趣味や生涯学習等の活動を通じて、元気な方が増えたことは良いことである。現状と課題と施策の方向について整合性をとれるよう修正すべき。

・フレイルの用語に注釈入れてほしい。⇒追加する。

・生活支援コーディネーターが地域の支えあいの仕組みを作る当事者一社協の職員、全町あげて取り組んでいくものであり、総合計画に盛り込めないか。

・高齢者タクシー利用料金の助成について、町内のタクシー業者の状況、制度の実態は。緊急時に使えるようになっているか。

⇒当町のタクシー業者のみでは不足するため、新発田市や新潟市北区・東区の業者に協力いただいている。一人当たり年間25,200円分配付し、使い切る方もいれば、全く使わない方もいる。課題としては、体調が悪い方が寝たまま乗れる、車いすのまま乗れる車種を使う業者を増やすことや、救急車に乗っても病院から帰れないこともあるので、普及啓発等を行っていく必要がある。

『3 障がい者福祉の充実』について

・現状と課題、「認定こども園、保育所、幼稚園」といった記載があるが、町で所有しているのは幼稚園のみであり文言を修正したらどうか。

⇒検討し、分かりやすい表現に修正する。

・現状と課題：「親なき後～」に関する事業を主要事業に追加したらどうか

⇒追加する方向で修正したい。

要 旨
(検討内容)

○【第3章「I 学校・家庭・地域の協働」】

『1 協働体制の充実』について

- ・「社会総がかり」という表現はわかりにくいいため、「社会全体の力を結集して」という平易な表現としたらどうか。
- ・指標「協働事業の実現割合」と「学校運営協議会運営事業」について、指標を「回数」ではなく、活動の成果を実感できるような指標に見直すべきでは。協議会自体は最低何回か実施しなければならないもので、取組の質や子どもたちの満足度を十分に見取ることが難しい。

『2 学校の中の地域づくり』について

- ・指標「学校給食等への地産地消率」や「食育を通じた交流事業実施数」について、学校の中の地域づくりという中で唐突に出てくるように感じる。
- ・地域人材・資源の活用について、「地場物産品を取り入れた食育の推進」に終焉しているので、表現を改めたらどうか。

『3 社会の教育力の活用』について

- ・「社会の教育力の活用」を目指すのであれば、教員の働き方改革の推進のみ取り上げており、教員目線で書いてあると受け取れる。他の取組を記載する等修正が必要では。
- ・スクールガードリーダーや12年カリキュラムについて、馴染みのない言葉なので脚注等で補足を加えてほしい。
- ・「郷土愛」と「地域への愛着を持った」という表現を統一した方が分かりやすい。

○その他

・大型事業との整合性確保

屋内遊び場整備事業等の大きな事業を進めるときには、教育や子育てのほかの施策・や主要事業とどのように繋がるかを明確にしておくことが大切。財政面の説明も含め、町全体として納得感のある進め方をしてほしい。

→教育・子育て分野の施策と連携し、事業の位置づけや優先順位をわかりやすく示す。費用や効果を丁寧に説明しながら、持続可能な子育て環境を整えていく。

・指標設計・評価手法の見直しについて

評価方法が「回数」や「設置率」といった数字に偏りがちで、取組の質や子どもたちの満足度を十分に見取ることが難しい。活動の成果をより実感できるよう、評価の方法を見直していくべきでは。

→満足度や到達度、意見の反映、出席率など、活動の質を大切にしたい指標に少しずつ切り替える。子ども・保護者・地域・教職員など、関わる人すべての声を聞くアンケートを定期的に行い、経年で変化を見ていく。令和7年度はこれまでの指標を使いながら、次の年度以降により良い評価方法を導入できるように準備する。

以上（次回は10月14日開催予定）